

第16回ちゅうでん教育振興助成（平成28年度）

報告書資料 一般 - 91

学校名	広島市立鈴張小学校
HPアドレス	http://cms.edu.city.hiroshima.jp/weblog/index.php?id=e0990
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	「学び」を中心とする授業の創造 ～すべての児童に学びを保障するために～
<p><活動・研究の意義・目的></p> <p>「学びとは、テキストとの出会いと対話であり、教室の仲間との出会いと対話であり、自己との出会いと対話である」（佐藤学「教師たちの挑戦」より）</p> <p>「子どもたちに「学び」が生まれているかどうか」という視点で、授業プラン、発問、グループ活動などの授業形態等について研修を重ねることにより、全ての子どもたちの育ちと学びを保障する。</p>	

<活動・研究報告>

1. 授業研究

①佐藤雅彰先生をお迎えしての研究会

本校では、佐藤雅彰先生を講師にお迎えして10年目を迎える。本年度も6月と2月に校内授業研究会（2月は自主公開研究会）を2回実施した。代表提案授業以外にも、午前中には全クラス参観していただき、指導・助言をいただいた。また、2月の自主公開研究会には、市内の小中学校から参観に来てくださり、同じ目標を持って研究する先生方と、「学び」について共に研修を深めることができた。

●6月10日（金） 6年 音楽科「曲をつくる楽しさを知ろう」

音楽科での「曲を作ろう」という活動を通して、どの子ども生き生きと授業に参加し、グループで協力し合いながら、楽しく曲を作っていた。佐藤先生からも、「子どもたちが安心して、夢中になって学んでいた。」「関わるのが苦手な子へ、教師が上手く入り『繋ぐ活動』ができていた。」等の、賞讃の言葉をいただいた。しかし、「目指すゴールと本時のめあての提示のしかた」や「技能教科での、めあてと評価の時間配分について」などが、今後の課題として残った。また、佐藤先生からも、音楽科での課題設定の方法について助言をいただいた。

●2月 3日（金） 5年 算数科「百分率とグラフ」

単元の指導計画を、(1)課題と出会う (2)「比べられる量」「もとにする量」「割合」の数量関係の判断 (3)線分図に表す (4)立式して値を求める (5)ジャンプの課題に挑戦 という流れを徹底した。その結果、子どもたちが支え合い、学び合う姿が、問題解決に向けて機能してきた。その成果を、本時の公開授業からも見ることができた。また、「図に書いて、問題を考える」ことが、どの学年でも統一されていて、そこからペア・グループでの話し合いの「もと」になっていることが、学校としての大きな成果であることを、佐藤先生からも賞讃いただいた。また、5年生の授業からは、「子供にもどす（足場設定）タイミング」について佐藤先生から助言をいただいた。

参観の先生方からも、「授業者の立ち位置・聴き方がとても良く、参考になった。」「子どもたちは、友達にたずねたり教えたりすることが自然にできていた。」「授業の組み立て方として、前半に基礎を固め後半でジャンプの課題があることで、低位の子ども力が付くと感じた。」等の発表があり、目指すべきものを再確認できた。

②校内授業研究会

8名の教員が、1人1～2回授業を提供し、計11回（2回の公開研を含む）の授業研究を進めた。授業前にはアピールタイムを設けて授業プランを皆で検討することで、課題設定の仕方や発問の工夫など、多くの意見をもとにプランを立てて授業に臨んだ。また、授業後の協議会では、見取った子どもたちの姿をもとに、どこで子どもの学びが深まり、どこでつまづいたかを検証し、得たことを日々の自分の授業の中で生かしていった。また、12月には、広島市教育委員会指導第一課から西村智由紀指導主事に、3年生の「はしたの大きさの表し方を考えよう～分数を使って～」の授業の指導を受けた。

上記の授業研究を、年度始めに各々「研究テーマ」を設定したうえで実施した。年度末にはテーマに基づいて自分の実践を振り返り、研究成果を研究紀要としてまとめ、構成員が変わっても継続して研究を行えるために資料として残していく。

2. 先進校視察およびセミナーへの参加

4名の教員が、3件の先進校の授業研究会や学びの共同体のセミナーへ参加した。研修成果はレポートにまとめて他の教員へも広げ、情報を共有した。

3. 小中一貫教育への取り組み

本中学校区は、4小学校と1中学校で、いずれも小規模校である。中学校区でも、「学力向上推進事業—小・中連携教育研究会—」とし、研究テーマを「小中9年間を見通した一貫性のある教育実践に取り組み、主体的に学ぶ力を育てる。」として、実践している。11月には、5校合同の公開授業研究会も行っている。また、夏季休業中には、「ハートプロジェクトチーム（基礎学力向上推進部会・生徒指導部会・特別支援教育部会）」に分かれて、各チームごとにテーマを絞って、意見交流を行っている。

本校の2月の自主公開研究会には、中学校区の全ての学校から出席があり、「学び」に対する意識が向上してきていることが分かった。次年度も、本校の実践研究が中学校区の推進役となるように、更に研修を深めていきたい。

4. 成果と今後の課題

○本校の一番の課題は、「学力の向上」であった。しかし、5年生での「基礎・基本定着状況調査」の結果が、3教科とも県・市の通過率より大きく上回り、特に、3教科とも通過率30%未満児童が0であったことから、これまでの研究の成果が現れてきたといえる。

また、本年度の「学校経営重点計画」で定めた評価指標の中の「算数科の長期休業前のまとめテストで、クラスの平均を80点以上にする」も、全クラスが達成することができた。

○「学びのアンケート」結果から、高学年では、「自分の考えを言いやすいクラスだと思いますか。」「自分の考えを友達に伝えることができますか。」「自分の言っていることをよく聞いてくれますか。」「友達がどんなことを言いたいのか、内容を理解して聞こうとしていますか。」などの設問で、肯定的回答が90%以上だった項目は、19問中18問であった。この結果からも、子どもたちの「学び」に対する成長が見られ、友達とのつながりも学年が上がるごとに深くなっている様子が見える。学びの授業を継続していくことの意義が表れているように思う。

低学年では、「あなたは、学習することが好きですか。」「友達の発表の内容を考えて聞いていますか。」「自分の考えとちがう友達の意見も大切にして、学習をしていますか。」「先生は、授業中、自分の話をよく聞いてくれますか。」などの項目が、肯定的回答の割合が90%以上であった。このことから、低学年においても、授業中に友達の発表をしっかりと聞きながら、学習に取り組んでいる様子が見えた。また、子どもたちの友達の話をしっかりと聴く力は、かなりできてきたといつてよいと思う。

●高学年では、「あなたは、進んで自分の考えを発言していますか。」だけが、肯定的回答が72%であった。このことから、友達との関わりは育っているが、自分の積極的な発言には課題があることが分かった。低学年では、「あなたは、進んで自分の考えを発言していますか。」「自分の考えを言いやすいですか。」「友達と一緒に、問題を解くことが好きですか」など、14項目中5項目が90%未満であった。このことから、低学年では、子どもの発言のどの部分を広げつないで全体の課題としていくか、子ども同士の考えをどうつなげていくかということについては、さらなる研修が必要であることが分かった。

「すべての児童に学びを保障するために」に向けて、全教職員が一丸となって取り組んでいる。すぐに効果の表れる事柄ではないが、継続により、子どもたちは仲間とつながることを喜びとして学習に取り組めるようになってきている。さらに質の高い学びを子どもたちに経験させることを目指して、今後も研修を重ねていきたい。